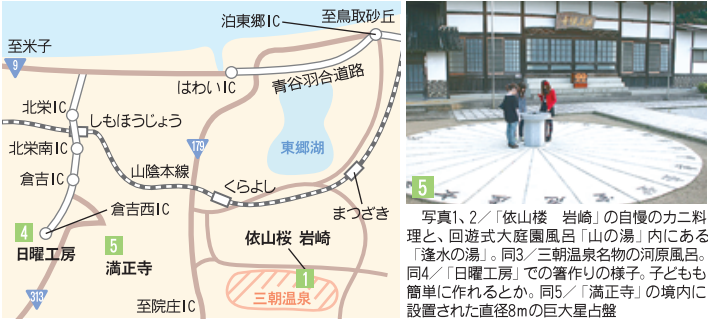


冬の鳥取へ

～開湯850年を迎える名湯とカニ尽くしの旅～

鳥取県中部に位置する温泉地「三朝(みささ)温泉」(東伯郡三朝町)が、2014年に開湯850年を迎えます。今回は、世界屈指のラジウム温泉が湧出する名湯と、解禁になったばかりの松葉ガニを堪能する、そんな冬の休日の提案です。
ふるさと鳥取県産業・観光センター(中区栄4・1・1 中日ビル4階/電話052・262・5411)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/>



【アクセス】電車…JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR倉吉(約4時間) 車…一宮IC→(名神高速道路→中国自動車道)→院庄IC下車、国道179号線で三朝町へ(約370km)

写真1、2/「依山楼 岩崎」の自慢のカニ料理と、回遊式大庭園風呂「山の湯」内にある「逢水の湯」。同3/三朝温泉名物の河原風呂。同4/「日曜工房」での著作りの様子。子どもも簡単に作れるとか。同5/「満正寺」の境内に設置された直径8mの巨大星占盤

現代の湯治場、絶品の松葉ガニ

源義朝の家来・大久保左馬之祐が、山中で出会った白いオオカミの殺生を思いとどまったその夜、妙見大菩薩が夢に現れ、助けてくれたお礼にと源泉のありかを教えてもらいます。以来、その場所は救いの湯として村人たちの病を治してくれました。

この霊験あらたかな伝説が残る三朝温泉の湯は、免疫力や自然治癒力が高まるともいわれる「ラドン」(ラジウムが分解されて生じる微弱の放射線)の含有量が世界有数。今も昔も療養目的で多くの人が訪れる、いわば湯治場で、最近では「現代湯治」をテーマに大学病院と連携した取り組みも注目されています。

宿泊先に到着してひと休みしたら街へ繰り出し、まずは公衆浴場で湯試しを。例えば伝説にある源泉は株湯と呼ばれ、今も現役。川の橋(三朝橋)のたもとに河原風呂は名物の露天風呂です。足湯や飲泉場では、地元の人と交わりながらの情報収集

も忘れずに。日が傾きかけたところに宿へ戻れば、お待ちかねの夕食です。

冬は断然、松葉ガニ。焼きガニはうま味が凝縮、カニすきは雑炊も格別、カニ刺しは松葉ガニの地元・鳥取なればこそです。皇族や数多くの文豪も愛した老舗旅館「依山楼 岩崎」をはじめ、どの宿もこぞって山陰の冬の味覚でもてなしてくれます。食事が済んだら、今度は宿の中の湯船へ。大小12の風呂が楽しめる同館など、同じく各宿で自慢の湯が満喫できます。もちろんその前に、再び温泉街散策に興じてみましょう。

周辺のお楽しみも二重丸

三朝の湯で英気を養った翌日は、「よく当たる」と評判の占いを試してみませんか。場所は、鳥取池田藩城代家老・荒尾志摩の菩提(ぼだい)寺でもある「満正寺」。秘伝の星占術を活用した、九曜星占盤が導き出す性格や恋愛、対人関係は…!! クラフト体験も旅の思い出作りに欠かせません。「日曜工房」は「長

寿」の花言葉を持つイチヨウの木でマイ箸が作れる工房。名前などを入れた「長寿箸」が、1時間程度で完成します。伝統のいで湯と絶品のカニ料理を筆頭に、濃密な時間が過ぎせそうなお三朝温泉。三朝川のせせらぎを乗せて渡る心地良い風や、三方を囲む山の匂いとともに、冬の記憶として刻みたいものです。



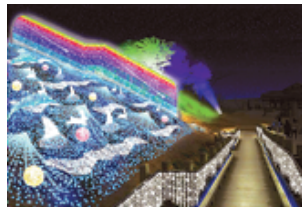
鳥取市は、カレーの消費量が日本有数。砂丘のある東部では、食堂や喫茶店などでオリジナルの「鳥取カレー」が楽しめます。その元祖といえるのが、1948(昭和23)年創業の「ベニ屋」(同市末広温泉町)。50年以上変わらない味のチキンカツカレー(750円)は、観光客にも人気です。

「鳥取カレー」の元祖! ベニ屋のチキンカツカレー



建物に投影する立体映像が世界で人気の3Dプロジェクションマッピング。「砂の美術館」(鳥取市福部町)では何と展示砂像に投影、ショートムービー仕立てで見せてくれます。砂像が動き出すような衝撃の瞬間をお見逃しなく。記念撮影用映像も予定。会期は12月14日(土)～25日(水)。

必見! 砂の美術館の3Dプロジェクションマッピング



砂丘市営駐車場(鳥取市福部町)周辺が、「10万年のキセキ」をテーマに20万個以上の電球で彩られます。特に、因幡の白ウサギ伝説がモチーフの巨大電飾は圧巻。鳥取産の食材を使ったスープやスイーツがそろった「カップバー」も登場します。12月7日(土)までと14日(土)～25日(水)。

11月23日(土・祝)開幕! 鳥取砂丘イリュージョン

冬イベント&グルメ情報! 砂丘まで足をのばして 冬は砂丘観光も外せません。クリスマスに合わせたイベントと、地元グルメを紹介します。